

令和6年9月定例会議 一般質問

10番議員 山下 純夫

自治体経営の観点から本町の水路管理を問う

本町は町域の面積に占める水路の比率が高く、大は文命用水から、小は住宅地の脇を流れる浅いものまで、その形態は多岐にわたると共に、流域には多くの権利が絡み合う。

また管理する際は利水・防災以外に、転落防止や道路の幅員に関する安全面、水面からの気化熱量の確保によるヒートアイランド化の抑制、生物多様性の側面から見た自然環境の一部など、様々な側面がある。

一方で、町民からの要望も、安全柵の設置、浚渫の要望の他、暗渠にして道路拡幅を求める声や、反対に自然環境を守るために現状維持を望むなど多種多様であることも理解している。

しかし、3月の予算審議では、自治会要望があれば浚渫を行うとの答弁があり、その姿勢は場当たりの計画性が感じられない。現に水路一面に雑草が繁茂したまま数年間放置されたところも散見される。

「田舎モダン」をコンセプトにまちづくりをするのであれば、水路は単なるインフラではなく、町の魅力として発信することも可能だと考える。

そこで安全・美観・環境・利水、そして防災等様々な観点から水路をどのように管理・活用していくのか、そして町民に理解を促すプロセスをどのようにしていくのか、町の考えを問う。